116 サンショウクイ　（スズメ目）

Pericrocotus divaricatus

兵庫県ランク:C

繁殖個体群:C　越冬個体群:無　通過個体群:ー

環境省ランク:VU(絶滅危惧Ⅱ類)

種の概要

亜種サンショウクイは本州、四国、九州で夏鳥。別亜種リュウキュウサンショウクイは沖縄で留鳥、九州では不規則な渡来とされるが、最近、リュキュウサンショウクイの北上が四国や本州南西部でも認められている。兵庫県では主に4-9月に見られる。平地から丘陵、低山の落葉広葉樹林など、比較的明るい林に生息し、高木の横枝に営巣する。樹上で昆虫類やクモ類を捕食する。秋は数10羽の群れが球状となって渡る。

写真提供:三谷康則

国内分布

北海道、南千島、本州、粟島、佐渡、舳倉島、見島、四国、九州、対馬、男女群島、屋久島、種子島、トカラ列島、伊豆諸島、小笠原群島、硫黄列島、トカラ列島、琉球諸島、大東諸島

県内分布　（　)表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、姫路市、(尼崎市)、明石市、(西宮市)、洲本市、(芦屋市)、伊丹市、豊岡市、加古川市、(赤穂市)、(宝塚市)、川西市、(三田市)、加西市、(篠山市)、養父市、南あわじ市、朝来市、淡路市、たつの市、(猪名川町)、(上郡町)、香美町、新温泉町　※県内繁殖有

主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性(特殊性)			学術上の希少性	
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	特殊休息・ねぐら環境	局地的繁殖	希少
○	○								○

県内における生息状況およびその他特記事項

Bランクから Cランクに変更。
1960年代には秋の渡去時に六甲山系で30-70羽の群れがよく観察されていたが、一時急減した。しかし、近年は県内各地で記録されるようになり、生息状況はやや回復していると考えられるため、Cランクに変更した。ただし、亜種リュウキュウサンショウクイが県内各地で観察されているため、確認が必要とされる。

写真提供:但馬野鳥の会

保護上の留意点

本種が生息し、好んで繁殖する山麓から低山の高木が繁る落葉広葉樹林を保全・維持するとともに、計画的な山林の管理により落葉広葉樹林の育成が重要。